

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

| | |
|------|----------|
| 学校名 | 常葉大学 |
| 設置者名 | 学校法人常葉大学 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|---|
| 貸借対照表 | http://www.tokoha.ac.jp/disclosure |
| 収支計算書又は損益計算書 | http://www.tokoha.ac.jp/disclosure |
| 財産目録 | http://www.tokoha.ac.jp/disclosure |
| 事業報告書 | http://www.tokoha.ac.jp/disclosure |
| 監事による監査報告(書) | http://www.tokoha.ac.jp/disclosure |

2. 事業計画(任意記載事項)

| |
|--|
| 単年度計画(名称:平成31年度事業計画書 対象年度:平成31年度) |
| 公表方法:ホームページにおいて公表 http://www.tokoha.ac.jp/tokohawp/wp-content/uploads/r01_bp.pdf |
| 中長期計画(名称:学校法人常葉大学の長期ビジョン・中長期計画等 対象年度:平成28年度~令和5年度) |
| 公表方法:ホームページにおいて公表 http://www.tokoha.ac.jp/tokohawp/wp-content/uploads/vision-plan1.pdf |

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

| |
|--|
| 公表方法:ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/self-check/self-check01/ |
|--|

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

| |
|--|
| 公表方法:ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/self-check/self-check01/ |
|--|

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

| |
|---|
| 学部等名 教育学部 初等教育課程 |
| 教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/ ） |
| （概要） 教育学部は、教育という視点から社会に貢献できる、幅広い教養、豊かな人間性、実践的な指導力を兼ね備えた人材の育成と、その育成の基盤となる研究の推進を目的とする。 初等教育課程は、学校教育の基礎としての小学校教育を中心に、幼稚園教育又は中・高等学校教育をも担うことのできる人材を育成する。 |
| 卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/education/admission-policy/ ） |
| （概要） 知識・理解 教科等の指導で必要になる基本的な事項を身につけるとともに、児童生徒の実態に合わせて授業教育活動を構成するための理論の理解を深めることができる。 思考・判断 学術的に裏打ちされた確かな判断、批判的思考力や論理的な表現力を持ち、教育現場においては対話型教育で培った力に基づいて協同協働的に結論を導き出すことができる。 関心・意欲 教育の意義と育てたい児童生徒像を追究し続け、学校教育で必要な実践的指導力とは何かを考え続けることができる。また、その追究のために自律的に学び続けることができる。 態度 規範意識を高く持ち、社会の一員としての役割と責任を果たし、地域に貢献する心を持ち続けるとともに、教科・教育に関する知識や技術および指導力の向上を自らに常に課すことができる。 技能・表現 「少人数教育」と「指導教員制」で培われた教科教育授業および児童生徒指導の実践力を駆使して、子どもの興味や関心を引き出す授業教育活動・教材づくり（地域教材等）ができる。 |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/education/admission-policy/ ） |
| （概要） 教育者の土台として、まずは社会人としての幅広い教養を身につけ、豊かな人間性や語学力・表現力・コミュニケーション力を養い、自らの視野を広げるように授業科目を配置する。その上で、各課程・学科ごとに、教育分野における基礎的・専門的知識を体系的に理解し、さらに、社会的課題に対応できる指導力・実践力を実習等で体験的に学ぶように科目を配置する。そして、3年次後期よりゼミ指導を通じて一つの課題を継続的・追究的に取り組む科目、特別研究を配置する。 ディプロマポリシーを達成できるように、基礎・理論的な科目を1・2年次、発展・実践的な科目を3・4年次に配置している。また、各科目群は以下の考えで配置している。 ● 教科教育科目群、教職専門科目群（発展的科目）は、教科および教職の専門知識と指導技術を基盤とした教授法を段階的に学びながら、抱負なアイデアを生み出せるように配置する。 ● 教科教育科目群・教職専門科目群（実践的科目）は、教育の意義を認知し、柔軟に教育を行う思考を育み、論理的表現力や、批判的思考によって共同協働作業を円滑に行う |

| |
|---|
| <p>ことができるように配置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 専攻科目群は、学術的思考に裏打ちされた一般的・包括的内容を発展的内容へと昇華させ、探究心と豊かな人間力が育つように配置する。 ● 教職専門科目群（基礎・理論的科目）は、教師力の素地を確立し、高い規範意識で総合的な判断力を持って行動ができるように配置する。 ● 実習科目群・特別支援科目群は、対話力を磨きながら、他者を受け入れ、自身の考えを精錬し、技能を駆使した表現活動を通して、子ども・家庭・地域に貢献できる柔軟なコミュニケーションができるように配置する。 |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/education/admission-policy/ ）</p> |
| <p>（概要） 教育学部は、幅広い教養、豊かな人間性、実践的な指導力を兼ね備え、教育という視点から社会に貢献したいという意欲を持つ学生を求めます。 初等教育課程では、具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 基礎的文章表現の理解や構築能力、及び基礎的数理能力や推理能力を持った者 ● 専門的知識や広い教養を獲得しうる全般的な基礎学力と意欲的な姿勢を持った者 ● 教師となる夢を持ち、実現していく情熱と根気を兼ね備えた者 ● 人と人との融和を図り、広い視野にたって人間関係を構築できる者 ● 自ら考え、自ら行動し、己を客観的に評価できる資質を持った者 |

| |
|--|
| <p>学部等名 教育学部 生涯学習学科</p> |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/ ）</p> |
| <p>（概要） 教育学部は、教育という視点から社会に貢献できる、幅広い教養、豊かな人間性、実践的な指導力を兼ね備えた人材の育成と、その育成の基盤となる研究の推進を目的とする。 生涯学習学科は、社会教育をはじめとする生涯学習社会の様々な教育分野で活躍できる人材を育成する。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/education/admission-policy/ ）</p> |
| <p>（概要）</p> <p>知識・理解</p> <p>【生涯学習専攻】 社会教育の専門的職員や生涯学習支援者としての専門的知識を理解している。また、地域課題を解決するための問題解決能力を身につけている。</p> <p>【生涯スポーツ専攻】 生涯にわたって健康の保持増進の知識を理解するとともに、身体の諸器官の機能、体力の向上および安全な環境づくりなどの知識を獲得している。</p> <p>思考・判断</p> <p>【生涯学習専攻】 学校、家庭、地域社会の連携を推進するためのコーディネーターとしての能力、それぞれの教育力を高めるためのファシリテーターとしての能力を身につけている。</p> <p>【生涯スポーツ専攻】 生涯を通じて運動に親しむ資質や能力を養うために、スポーツの合理的な実践法、指導者の観察法、健康づくりなど豊かな思考力と創造性を養い、自己課題に応じた実践の工夫ができる。</p> <p>関心・意欲</p> |

【生涯学習専攻】

生涯学習社会の理念を理解し、その実現への高い使命感を持つことができる。また、生涯学習領域における実践的関心のみならず研究的関心を幅広く持つことができる。

【生涯スポーツ専攻】

生涯スポーツに関わる教養、幅広い知識・技能を体系的かつ総合的に身につけるために、コミュニケーション能力を培い、常に高い意欲と柔軟な感性を持って、学問を追究することができる。

態度

【生涯学習専攻】

生涯学習社会の実現に向けて、「新しい公共」の形成のための社会貢献活動等を自ら行うことができる。さらに、その活動のための自己研鑽を生涯にわたり行うことができる。

【生涯スポーツ専攻】

「スポーツ」「健康」の探究に自主的・主体的に取り組むとともに、専門領域と他領域の融合から、幅広い知識を活用する実践力を身につけるようにする。

技能・表現

【生涯学習専攻】

地域における生涯学習振興計画・社会教育計画の立案およびその評価を行うことができる。あわせて、個別の学習プログラムにかかわる専門的な企画、運営および評価を行うことができる。

【生涯スポーツ専攻】

健康保持増進のための生活習慣や身体運動に重点を置きながら、生涯スポーツに活かせる理論と実践の架橋から、実践知を獲得することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表

<https://www.tokoha-u.ac.jp/education/admission-policy/>）

（概要）

教育者の土台として、まずは社会人としての幅広い教養を身につけ、豊かな人間性や語学力・表現力・コミュニケーション力を養い、自らの視野を広げるように授業科目を配置する。その上で、各課程・学科ごとに、教育分野における基礎的・専門的知識を体系的に理解し、さらに、社会的課題に対応できる指導力・実践力を実習等で体験的に学ぶように科目を配置する。そして、3年次後期よりゼミ指導を通じて一つの課題を継続的・追究的に取り組む科目、特別研究を配置する。

【生涯学習専攻】

専攻科目は、教養教育科目および学科共通科目で生涯学習支援にかかわる基礎的な資質・能力を身につけた上で、社会教育主事、図書館司書、博物館学芸員など、社会教育の専門的職員や生涯学習支援者として広く活躍する人材養成のための科目を体系的に配置する。その際、人間関係能力、実践能力および研究能力の習得を目指すため、理論面に加え、演習、実習、実技、特別研究および課題研究等の科目を効果的に配置する。

【生涯スポーツ専攻】

人々が生涯にわたり豊かな生活を送るために、生涯学習に関する理論・実践を通じ、生涯スポーツに関わる広い知識・技能を体系的かつ総合的に身につけるために、演習・実践科目を適切に配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表

<https://www.tokoha-u.ac.jp/education/admission-policy/>）

（概要）

教育学部は、幅広い教養、豊かな人間性、実践的な指導力を兼ね備え、教育という視点から社会に貢献したいという意欲を持つ学生を求めます。

生涯学習学科では、具体的に次のような学生を求めます。

- 生涯学習の支援・推進に関わる専門家・指導者となることへの熱意を持っている者
- 専門的知識や教養を習得するための基礎的な学力と高い学習意欲を持っている者

- 強い責任感を有し、社会人としてのルールを尊重し、より良い人間関係を築くことに努める者
- 学業に励むとともに、進んで文化・スポーツ活動、ボランティア活動などに参加する者

学部等名 教育学部 心理教育学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表
<https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/> ）

（概要）
 教育学部は、教育という視点から社会に貢献できる、幅広い教養、豊かな人間性、実践的な指導力を兼ね備えた人材の育成と、その育成の基盤となる研究の推進を目的とする。
 心理教育学科は、人間のこころの領域を科学的に把握してコミュニケーションでき、社会の様々な分野で活躍できる人材を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表
<https://www.tokoha-u.ac.jp/education/admission-policy/> ）

（概要）

知識・理解
 心理学全般にわたる基礎的知識を土台に、臨床心理学および発達臨床心理学的支援に関する専門知識や技能を理解し、備えている。

思考・判断
 社会の中にある様々な物事を、主観に流されることなく客観的な視点からとらえるとともに多面的・批判的に考察することができる。

関心・意欲
 人間の心の動きやあらゆる営みに関心を持ち、その理解や支援のスキルを社会に役立てようとする強い意欲を持つことができる。

態度
 自分自身を含む人間の心や行動について客観的によく理解しようとすることができる。さらに、他者を受容的・共感的に理解しようとすることができる。

技能・表現
 情報を的確に収集・評価できる分析力、対人援助の実践力、発達理解の応用力を習得し、地域や社会のために活用することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表
<https://www.tokoha-u.ac.jp/education/admission-policy/> ）

（概要）
 教育者の土台として、まずは社会人としての幅広い教養を身につけ、豊かな人間性や語学力・表現力・コミュニケーション力を養い、自らの視野を広げるように授業科目を配置する。その上で、各課程・学科ごとに、教育分野における基礎的・専門的知識を体系的に理解し、さらに、社会的課題に対応できる指導力・実践力を実習等で体験的に学ぶように科目を配置する。そして、3年次後期よりゼミ指導を通じて一つの課題を継続的・追究的に取り組む科目、特別研究を配置する。
 まず、心理学（特別支援を含む）を広範に学ぶとともに、概論的知識からより専門的な各論へと展開される学習の系統性を重視して科目を配置する。次に、実習や実験等の体験を重視した授業を多く取り入れ、科学的な分析力と援助のための適切なスキルの定着を目指して科目を配置する。最後に、体験的な学習や研究等における学生同士や教員とのコミュニケーションの中から、専門的な知識や技能だけでなく、人間を理解しようとする態度を身につけることを目指して科目を配置する。

| |
|---|
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/education/admission-policy/ ）</p> |
| <p>（概要） 教育学部は、幅広い教養、豊かな人間性、実践的な指導力を兼ね備え、教育という視点から社会に貢献したいという意欲を持つ学生を求めます。 心理教育学科では、具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人の心や行動の「働き」や「違い」に関心や疑問を持ち、それを理解し、疑問を解明するためには努力を厭わず、主体的に学習し、探究しようという意欲と向上心、知的好奇心を持っている者 ● 特に「発達」や「カウンセリング」について探究し、教育現場（特別支援教育を含む）やカウンセリング等の領域において、他者の成長や支援に関わりたいという熱意を持った者 |

| |
|--|
| <p>学部等名 外国語学部 英米語学科</p> |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/ ）</p> |
| <p>（概要） 外国語学部は、実践的な外国語運用能力を身に付け、真のコミュニケーション能力を持った人材の育成と、その基盤となる研究の推進を目的とする。 英米語学科は、英語運用能力の獲得及び英米の文化、歴史、社会などの広い知識を修得させ、社会の様々な分野で活躍できる人材を育成する。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/language/admission-policy/ ）</p> |
| <p>（概要）</p> <p>知識・理解 英語や英米の文化・歴史・社会に関する専門的な知識を修得している。</p> <p>思考・判断 英語や英語圏文化の知を生かして、問題を発見し、解決に結びつけることができる。</p> <p>関心・意欲 英米の文化的・社会的な問題に広く関心を持つことができる。</p> <p>態度 国際社会に貢献する姿勢を身に付け、地域社会のニーズに応えることができる。</p> <p>技能・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な英語運用能力を身につけている。 ・国際社会で働く上での実務的なスキルを身につけている。 |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/language/admission-policy/ ）</p> |
| <p>（概要） 英語の実践的運用能力を高め、英米の歴史、文化、社会に関する幅広い知識を深め、国際社会で活躍するための問題解決能力を育むため、以下のような教育課程を編成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 英語の実践的運用能力を効果的に養成するために、4 技能の基礎から応用まで扱う英語コミュニケーション科目を配置している。 ● 英語圏の歴史、文化、社会に関する知識を深めるため、学生それぞれの問題意識にしたがって履修できる講義科目を段階的に配置している。 ● 4 年間の学びの集大成として、卒業論文作成を通して問題解決力や創造的な思考力を身につける特別研究を4年次に配置している。 |

| |
|--|
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/language/admission-policy/ ）</p> |
| <p>（概要）</p> <p>外国語学部は、本学部で学ぶのに十分な外国語学習能力を担保するために、基礎的な英語力（読む、書く、聞く、話す）が備わっている者、外国の社会、文化、歴史等に広く関心を持ち、自ら積極的に情報を取得しようとする姿勢が見られる者、大学卒業までに、他者の発する種々の情報を正確に理解し、また、自らの見解や意見を分かり易く、論理だててアウトプットできるようになるために必要となる基礎的な日本語読解力、文章作成能力の備わった学生を求めます。</p> <p>英米語学科では、具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 英語の習得、ブラッシュアップに意欲的な者 ● 持続的に学習が継続できる者 |

| |
|--|
| <p>学部等名 外国語学部 グローバルコミュニケーション学科</p> |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/ ）</p> |
| <p>（概要）</p> <p>外国語学部は、実践的な外国語運用能力を身に付け、真のコミュニケーション能力を持った人材の育成と、その基盤となる研究の推進を目的とする。</p> <p>グローバルコミュニケーション学科は、国際語としての英語のみならずその他の言語の運用能力とグローバルな視野を持ち、社会の様々な分野で活躍できる人材を育成する。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/language/admission-policy/ ）</p> |
| <p>（概要）</p> <p>知識・理解 複数の地域の言語および文化・歴史・社会に関する専門的な知識を身につけている。</p> <p>思考・判断 複数の地域の言語や文化の知を生かして、問題を発見し、解決に結びつけることができる。</p> <p>関心・意欲 複数の地域の文化的・社会的な問題に広く関心を持つことができる。</p> <p>態度 国際社会に寄与する姿勢を身に付け、地域社会のニーズに応えることができる。</p> <p>技能・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な複数の言語の運用能力を身につけている。 ・国際社会で働く上での実務的なスキルを身につけている。 |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/language/admission-policy/ ）</p> |
| <p>（概要）</p> <p>複数の言語の実践的運用能力を高め、それらの言語が使用されている地域の歴史、文化、社会に関する幅広い知識を深め、国際社会で活躍するための問題解決能力を育むため、以下のような教育課程を編成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 4 地域（スペイン、ブラジル、中国、韓国）の文化・社会に関する基礎的な知識を得て、1 年次後期以降に学習する言語を学生自らが選択するために、1 年次前期に 4 地域の「文化入門」科目を必修で配置している。 ● 1 年次後期から 4 年次まで、スペイン語、中国語、韓国語の中から少なくとも 2 言語を修得するための外国語コミュニケーション科目を配置している。CEFR に準拠したレベルゲージを使用し、各言語共通の学習到達度指標を設定している。 |

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 国際語としての英語のコミュニケーション能力を高めるため、1年次から4年次まで英会話科目を配置している。 ● 世界および複数の地域の文化・社会・歴史等に関する知識を深めるため、1年次から4年次までに「World Studies」「Area Studies」「Cross-cultural Studies」の科目群を配置し、4年次の特別研究に結びつけている。 ● グループワークを通し他者と協調しながら働くことのできる社会人基礎力を身につけるため、1年次から3年次まで「協働研究セミナー」科目を配置している。1・2年次は必修としている。 ● 国際社会や地域社会で活躍する力を育むため、1年次後期から4年次にかけてGC学科生に特化した「キャリア開発科目」を配置している。 |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/language/admission-policy/）</p> |
| <p>（概要）</p> <p>外国語学部は、本学部で学ぶのに十分な外国語学習能力を担保するために、基礎的な英語力（読む、書く、聞く、話す）が備わっている者、外国の社会、文化、歴史等に広く関心を持ち、自ら積極的に情報を取得しようとする姿勢が見られる者、大学卒業までに、他者の発する種々の情報を正確に理解し、また、自らの見解や意見を分かり易く、論理だててアウトプットできるようになるために必要となる基礎的な日本語読解力、文章作成能力の備わった学生を求めます。</p> <p>グローバルコミュニケーション学科では、具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2つの言語の外国語習得に意欲的な者 ● 社会人基礎力の獲得に積極的に取り組む者 ● 持続的に学習が継続できる者 |

| |
|---|
| <p>学部等名 造形学部 造形学科</p> |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/）</p> |
| <p>（概要）</p> <p>造形学部は、多様なアートやデザインの分野で高度な知識と技術が求められる時代において多方面にわたり活躍できる人材の育成と、その育成の基盤となる研究の推進を目的とする。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/art/admission-policy/）</p> |
| <p>（概要）</p> <p>知識・理解 造形活動全般にわたる基礎的な知識ならびに選択した領域における専門的知識によって、創造性の価値を理解し、作品制作や企画、設計、教育等に活かすことができる。</p> <p>思考・判断 造形活動の様々な分野における価値の多様性を認め、柔軟な発想と広い視野、クリティカルな考え方を基として、芸術性と社会性の両面において問題の発見とその解決に向けた提案ができる。</p> <p>関心・意欲 造形に関する世界的動向に関心を持つ一方、地域の「良さ」や「美しさ」といった地域力を再発見し、自ら具現化することにより、文化の発展に寄与できる。</p> <p>態度 造形に関わる活動を通して、社会人としての使命感や責任感、コミュニケーション能力を身に付け、人と芸術の関わりや創造的活動の持つ深い精神性を理解するとともに、他者や社会にそれらの価値を普及、還元するための適切な行動ができる。</p> |

技能・表現

造形活動全般にわたる基礎的な技能と表現を身に付けた上で、選択した領域における専門的な技能を活用し、作品として表現、提案を行うことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表
<https://www.tokoha-u.ac.jp/art/admission-policy/>）

（概要）

全学年にわたり専門分野の実技と理論を、基礎から高度な内容まで、バランスよく段階的に履修することを基本に配置する。主として学部共通科目と専攻科目からなり、学部共通科目は、造形に関する広い視野と創造的な思考が可能になるよう諸科目を配置し、特に「卒業制作」は、4年間の学修の集大成を作品として結実する必修科目とする。専攻科目は、専攻する分野についての深い知識・理解と高度な技能・表現の養成を目的に諸科目を配置し、その中心となる演習および実技・実習科目では、理論科目で習得した知識を基盤としつつ、技術、表現力等を十分発揮できるように、時間をかけて徹底した個別指導を行う。

学部共通科目、専攻科目、教職に関する科目、教科又は教職に関する科目および博物館関連科目を配置する。

学部共通科目は、造形全般の基礎的知識やコースを越えた幅広い知識を学修し、総合的な観点から造形活動をとらえられるよう諸科目を配置する。

専攻科目には造形理論科目、共通表現基礎科目のほか、アート表現コース、ビジュアルデザインコース、デジタル表現デザインコース、環境デザインコースを設け、各コースの専門科目を配置する。造形理論科目は、各コースに準じた専門的な知識を得るための科目だが、コースを越えて選択できるように配置する。共通表現基礎科目は、造形活動に必要な基礎的な技術を身に付けられるよう初年次に配置する。各コースの専門科目は、学生が所属するコースに分かれ、段階的に専門的な知識と表現技術・技法を習得できるように配置する。

教職に関する科目、教科又は教職に関する科目は教職の育成のために、博物館関連科目は学芸員の育成のために配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表
<https://www.tokoha-u.ac.jp/art/admission-policy/>）

（概要）

造形学部は、造形的な専門性以上に、社会人として求められる基礎・基本、人間力を身につけ、造形芸術を通して社会に貢献しようとする高い志と意欲を持つ者、自立した人間として、他者や取り巻く環境と協調・協働しながら、芸術的創造活動の展開ができる基本的な素養を備える者、そして、造形芸術を学ぶ意欲にあふれ、使命感を持って社会貢献を目指す学生を求めます。

造形学科では具体的に次のような学生を求めます。

- 造形活動に情熱を持って取り組む姿勢を持つ者
- 教員と共に目的意識を持ち切磋琢磨する者
- 多種多様なアートとデザインの分野に興味を持ち制作する者
- 創り出すことが好きであり、物事に対して真摯に向き合うことのできる者

学部等名 法学部 法律学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表
<https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/>）

| |
|--|
| <p>(概要)</p> <p>法学部は、幅広い教養と高い公共性・倫理性に加えて法的知識やリーガルマインドを身に付けることにより、積極的に社会を支え、あるいは改善に導くことのできる人材の育成を目的とする。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/law/admission-policy/）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>知識・理解 法・政策に関する専門知識を土台に、社会の状況を適切に理解できる。特に、現代社会において基底的価値をなす自由・平等・人権・民主主義といった基礎概念について十分に理解できる。</p> <p>思考・判断 現実を適切にとらえ、その問題を発見し、解決法を検討できる。適切な情報の収集・選択を行う情報リテラシーを身に付け、客観的かつ合理的な社会認識に基づき論理的な思考・判断ができる。</p> <p>関心・意欲 社会に関心を持ち、その中で生きる自分と社会の関わりについて考察することができる。社会の基底的価値に関する理解に基づき、社会や自己についてより好ましい在り方について検討できる。</p> <p>態度 社会や自己の状況に関する適切な認識を元に、自らの在り方を作り上げることができる。自らの意思に基づいて主体的に行動し、社会正義の実現のため積極的に関与できる。</p> <p>技能・表現 市民として他者と適切にかかわり社会生活を送ることができる。他者と適切にコミュニケーションをとることで、自らの意思の内にある社会像・自己像に向かうことができる。</p> |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/law/admission-policy/）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>専門科目は、教養教育科目で修得すべき基礎知識やスキルを基に、法律と政策に関する専門知識によって適切に社会を理解できるように、体系的段階を経ながら配置する。特に、法律総合コースにおいては法律学の体系的理解を、公共政策コースにおいては政策的観点からの社会理解を可能とするよう、専門的体系化を伴う科目配置を行う。さらに、単なる知識の修得にとどまらず、社会の中で一人の市民として生きてゆく上で役立つように、演習科目を適切に配置する。このため、基礎から専門への適切な接続のため、法学政策学基礎演習を配置し、3・4年次においては各自の専門的関心に応じた専門演習を配置する。</p> |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/law/admission-policy/）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>法学部は、幅広い教養と高い公益性・倫理性に加えて法的知識やリーガルマインドを身に付けることにより、積極的に社会を支え、あるいは改善に導くことに意欲を持ち、自らも向上心を持つ学生を求めます。</p> <p>法律学科では具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人権に対して尊厳の気持ちを持っている者 ● 地域社会へ貢献したいという希望と意欲を持っている者 ● 周囲の人々と協力して物事を成し遂げようとする協調心を持っている者 ● 社会のルールや秩序の仕組みに関心を持っている者 ● 自らの責任において主体的に学習しようという意欲と向上心を持っている者 ● 物事に果敢に挑戦しようという意欲を持っている者 |

| |
|--|
| <p>学部等名 健康科学部 看護学科</p> |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/ ）</p> |
| <p>（概要）</p> <p>健康科学部は、幅広い教養と豊かな人間性を身に付け、看護学や理学療法学の専門知識と技術の修得のみならず、医療を支える優れたケアを提供するための最善の仕組みを創造し、実践する能力を有する人材の育成を目的とする。</p> <p>看護学科は、看護学の専門知識と技術に加え、医学的・科学的根拠に基づいた適切な判断能力と問題解決能力を有し、他の医療専門職と連携を図りながら包括的な医療・保健サービスを実践できる人材を育成する。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-science/admission-policy/ ）</p> |
| <p>（概要）</p> <p>知識・理解 看護専門職として、専門的知識・技術を活用し、科学的根拠に基づき適切な査定ができる。</p> <p>思考・判断 看護専門職として、さまざまな健康レベルにある個人・家族・集団に対して看護を実践し、評価することができる。</p> <p>関心・意欲 看護専門職として、変化する社会の中で、継続的・発展的に自己を向上させるために必要な専門性を探究する意欲を持つことができる。</p> <p>態度 看護専門職として生命の尊厳を重視し、人権擁護の責務を担う者として、必要な倫理観、豊かな人間性を高めることができる。</p> <p>技能・表現 看護専門職としての自覚を持ち、よりよいヒューマンサービスを提供するために、さまざまな専門職者と連携を図る能力を身につけることができる。</p> |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-science/admission-policy/ ）</p> |
| <p>（概要）</p> <p>社会人として深い教養と幅広い知識を養い、知徳を兼備した医療専門職の基盤となる教養教育科目を配置する。複雑化する保健医療福祉における責任と役割遂行のための適切な判断力・問題解決力を養うことができるように、専門基礎科目、専門科目を配置する。専門的知識・技術の実践ができるように演習科目、実習科目を配置する。保健医療福祉領域の専門職と協働し変化する社会の要請に応えるために、看護学科、静岡理学療法学科の学生がともに学ぶことのできる、学部共通の教養教育科目、専門基礎科目、専門科目を配置する。</p> <p>医療専門職として深い教養と幅広い知識を養い、知徳を兼備した看護専門職の基盤となる教養教育科目を配置する。複雑化する保健医療福祉分野において、看護師としての責任と役割遂行のために、必要な生命の尊厳や人権の尊重を基盤とした人間を理解する能力や、適切な判断力・問題解決能力を養うことができるように専門基礎科目・専門科目を配置する。修得した知識を活用して、看護技術を展開できるための演習科目を配置する。臨地場面で看護の対象である人々とかかわり、専門的知識・技術を統合し実践できるように実習科目を配置する。</p> <p>さらに、看護師として必要な倫理観・看護観を育み、豊かな人間性を身につけさせる。保健医療福祉領域の専門職と協働し、変化する社会の要請に応えるために、静岡理学療法学科の学生とともに学ぶことのできる、学部共通の教養教育科目・専門基礎科目、専門科</p> |

| |
|--|
| 目を配置する。 |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-science/admission-policy/ ）</p> |
| <p>（概要）</p> <p>健康科学部は、看護学及び理学療法学それぞれの専門分野の枠を超えて医療専門職として求められる知識や技術、人間性を備え、保健医療福祉の場での活動を通して、地域社会に貢献したいという意欲を持つ学生を求めます。</p> <p>看護学科は具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 看護師として人々の健康生活に貢献したいという気持ちを持っている者 ● 他者に対する思いやりの気持ちがあり、人と関わるのが好きな者 ● 人権や生命に対して尊厳の気持ちを持っている者 ● 主体的に学習しようという意欲と向上心がある者 |

| |
|--|
| <p>学部等名 健康科学部 静岡理学療法学科</p> |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/ ）</p> |
| <p>（概要）</p> <p>健康科学部は、幅広い教養と豊かな人間性を身に付け、看護学や理学療法学の専門知識と技術の修得のみならず、医療を支える優れたケアを提供するための最善の仕組みを創造し、実践する能力を有する人材の育成を目的とする。</p> <p>静岡理学療法学科は、理学療法学の専門知識と技術に加え、医学的・科学的根拠に基づいた適切な判断能力と問題解決能力を有し、他の医療専門職と連携を図りながら包括的な医療・保健サービスを実践できる人材を育成する。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-science/admission-policy/ ）</p> |
| <p>（概要）</p> <p>知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士としての専門的知識、実践力を身につけている。 ・国際化に対応した知識、視点を身につけている。 <p>思考・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者に必要な情報を収集し、適した対応を判断することができる。 ・臨床の場において疑問点を解決するため、資源（文献検索、研究など）を活用することができる。 <p>関心・意欲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療において信頼関係を構築し協働する中で、理学療法士の重要性（役割）を自覚できる。 ・理学療法の発展のため、臨床の場において疑問や好奇心を持つことができる。 <p>態度</p> <p>生命に対する深い畏敬の念と倫理観を有している。</p> <p>技能・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の専門性を発揮し、実践できる能力を有している。 ・患者・医療従事者とコミュニケーションをとることができ、良好な人間関係を築くことができる。 |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-science/admission-policy/ ）</p> |

| |
|---|
| <p>(概要)</p> <p>社会人として深い教養と幅広い知識を養い、知徳を兼備した医療専門職の基盤となる教養教育科目を配置する。複雑化する保健医療福祉における責任と役割遂行のための適切な判断力・問題解決力を養うことができるように、専門基礎科目、専門科目を配置する。専門的知識・技術の実践ができるように演習科目、実習科目を配置する。保健医療福祉領域の専門職と協働し変化する社会の要請に応えるために、看護学科、静岡理学療法学科の学生がともに学ぶことのできる、学部共通の教養教育科目、専門基礎科目、専門科目を配置する。</p> <p>1年次には、理学療法士として必要である生命、健康、社会、文化、コミュニケーションへの理解を深めるための基礎教育科目と、人体の構造と機能の理解を深めるための専門基礎科目を配置する。</p> <p>2～3年次には、病態（病気）と障害を理解し、さらに保健医療福祉の理解を深めるための専門基礎科目を配置する。また、理学療法の基礎的知識・技術、それぞれの領域に特化した理学療法評価および技術を学ぶための専門科目を配置する。</p> <p>4年次には、学んだ知識・技術を、臨床の現場でどう活用するのかについて学ぶ専門科目を配置する。また、チーム医療の一員として他の専門職と協働することを学ぶ専門科目を配置する。</p> <p>臨床実習は、1・2年次に理学療法士への動機付けを目的に見学・体験実習を設ける。理学療法における評価および治療の習得を目的に、臨床実習Ⅰ・Ⅱを設置する。</p> |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-science/admission-policy/）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>健康科学部は、看護学及び理学療法学それぞれの専門分野の枠を超えて医療専門職として求められる知識や技術、人間性を備え、保健医療福祉の場での活動を通して、地域社会に貢献したいという意欲を持つ学生を求めます。</p> <p>静岡理学療法学科は具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 理学療法士として人々の健康生活に貢献したいという気持ちを持っている者 ● 人権や生命に対して尊厳の気持ちがあり、人と関わるのが好きな者 ● 地域社会に対して貢献する意欲を持っている者 ● 専門分野に対する探究心と向上心がある者 |
| <p>学部等名 経営学部 経営学科</p> |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>経営学部は、「個の成長・社会との調和」をめざし、経営学の基本理論を修得し、その専門的応用・実践力をもって地域社会に貢献できる知恵と徳操を具備する人材の育成と、その育成の基盤となる研究の推進を目的とする。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/management/admission-policy/）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>知識・理解 経営学の基礎知識・基本理論を幅広く修得したうえで、経営・会計・情報、関連する経済分野における専門性を身に付けている。これらの専門知識を体系的に理解している。静岡県をはじめとする地域経済や環境問題等の現代社会の諸課題を理解している。</p> <p>思考・判断 修得した経営学の基礎知識を活用して、自らが取り組むべき課題を解決するための思考・</p> |

判断をすることができる。経営学の基本理論を、経営・会計・情報、関連する経済分野において包括的かつ実践的に応用できる。

関心・意欲

企業や行政機関で活躍するためのチャレンジ精神と実践力を持っている。仕事をとおして自己実現を図り、地域社会に貢献しながら自らも成長したいという意欲をもっている。複雑化・多様化する社会の中で新しい課題を発見することができる。

態度

静岡県をはじめとする地域の発展に貢献するための知徳を兼備する。人として地域社会に生きる“術”や豊かな人間関係を築くことができる。将来の自己実現に向けて、継続的に主体的に学習に取り組むことができる。

技能・表現

さまざまな業種・職種において必要とされる基本的な技能を身につけている。修得した知識や技能を活用し、思考・判断したことを、社会の中で実践に結びつけていくことができる。また、必要に応じて、体験したことや思考・判断したことを適切に記録、要約、説明できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表
<https://www.tokoha-u.ac.jp/management/admission-policy/> ）

（概要）

経営学とその関連領域の体系的学修と経営学教育の質保証をめざすために、まず、専門基礎科目において、専門科目を学ぶ上での導入科目を配置する。専門基礎科目の学修の上に、幅広い関心をもたせ、人間形成を促し、応用力を培う経営・会計・情報・経済の4分野の科目を配置する。また、キャリア支援のための専門関連科目、教職を強く希望する学生のために教職科目を配置する。さらに、専門教育科目の個々の学びを体系化し、4年間にわたる大学の学びの集大成として卒業研究をまとめ上げることを目的とする演習・卒業研究科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表
<https://www.tokoha-u.ac.jp/management/admission-policy/> ）

（概要）

経営学部では、経営学の基礎理論や応用理論を修得することを通しその専門能力と応用実践能力をもって将来、企業や自治体等における活躍や地域社会への貢献に意欲のある学生を求めます。

経営学科では、具体的に次のような学生を求めます。

- 経営、会計、情報、経済の専門分野を学び、地域の企業や自治体での働きを通じて地域社会に貢献したいという意思を持っている者
- 高い専門性を目指し在学中に各種の資格を取得しながら、それらを将来の自己実現に役立てたいという意思を持っている者
- 経営学部の学びを通して広い世界を視野に入れて、将来グローバルに活躍したいという意思を持っている者

学部等名 健康プロデュース学部 健康栄養学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表
<https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/> ）

| |
|---|
| <p>(概要)</p> <p>健康プロデュース学部は、人が現代社会を健康に過ごすために、健康についての確かなサポートができる人材を育成し、健康を有機的総合的に捉えて 21 世紀に必要とされる新たな健康概念を模索、創造する研究の推進を目的とする。</p> <p>健康栄養学科は、多様な専門領域に関する基本となる能力や高度な栄養管理に必要とされる知識・技能、態度及び考え方の総合的能力、またチーム医療の重要性を理解し、その一員として責務を果たし得る能力及び他職種の人々や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力を有する人材を育成する。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/ ）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食や健康・栄養に関する基本的な知識と能力を身につけており、他者と議論することによって理解を深めることができる。 ・食品の機能、調理及び人体に関する知識・技能を有し、それらを統合して活用する能力を身につけている。 <p>思考・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食や健康・栄養に関する基本的な知識をもとに現実を直視し、理想と現実の間に問題を発見し、解決ができる能力を身につけている。 ・食に関する専門職としての必要な知識・技能を有し、それらを統合的に考えることができる。 <p>関心・意欲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康のために不可欠な、食の面からのサポートを創造しようとする意欲を持つことができる。 ・食や栄養と健康に関する事象を、多様な領域と関連付けながら、より深く追求しようという意欲を持つことができる。 <p>態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誠実で礼儀正しく、真理を探究しようとする努力を継続することができる。 ・日々、自己研鑽を積み、人の尊厳とありかたについての理解を深め、尊重し受け入れようと努力することができる。 ・他者とのコミュニケーションを図り、円滑な人間関係を構築することができる。 <p>技能・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食や健康・栄養に関して修得した専門的知識や技能を活用し、論理的かつ分かりやすく説明することができる。 ・地場産品を用いた商品開発、地域住民対象の健康づくり事業、食育活動の推進などに獲得した知識・スキルを活用できる能力を身につけている。 |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/ ）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>「健康」をテーマに人と社会に関わることになる学部学生の人間性を高める学部共通の選択科目として、教養文化領域、スポーツ領域、コミュニケーション領域について以下の 25 科目を配置する。</p> <p>教養文化領域は複雑多岐にわたる価値観を持つ人と社会へ対応するために 10 科目、スポーツ領域は全学共通科目としての体育系科目とは別に健康維持・増進及びスポーツについての理解を深めるための 5 科目を配置する。コミュニケーション領域は、世界共通言語としての英語コミュニケーション 4 科目は全学共通科目となっているため、学部共通科目では英語以外の語学教養を身に付けられるように幅広い選択肢を設け、総合的な語学力を習得するとともに異文化・国際理解、コミュニケーションの意味やその重要性の理解を深めるための 8 科目と、健康的な生活を支援する専門的教養として「手話」「点字」の 2 科目、</p> |

計 10 科目を配置する。
 健康栄養学科では、栄養士免許ならびに管理栄養士受験資格の取得を基盤に授業科目を配置する。
 専門分野では「専門基礎」と「専門分野」に大別し、科目間知識の融合、基礎から実践への活用ができるよう体系的に科目を配置する。専門基礎分野では、「学科基礎科目」、「社会・環境と健康」、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「食べ物と健康」において講義及び実験実習を行い、基礎的専門知識を養う。専門分野では「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」において講義、演習、実験・実習により技能の修得と向上を図る。さらに「総合演習」、「臨地実習」により専門知識と技能を統合し、実践力を養う。また、栄養教諭一種免許、フードスペシャリスト受験資格取得に関する授業科目も配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表
<https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/>）

（概要）
 健康プロデュース学部では、基礎的な学力を十分に活用し、自ら考え判断することができる者、そして、健康に関する多様な学問分野について興味を持ち、将来の目標達成に向けて前向きに取り組むことができる学生を求めます。
 健康栄養学科では、具体的に次のような学生を求めます。

- 管理栄養士、栄養教諭などの資格に関心があり、資格を取ることに意欲があり、地域に貢献したい者
- 人とのコミュニケーションをとることができ、保健・医療・福祉・食品産業などの分野で食を通じた健康づくりの専門家として教育や指導、栄養管理に貢献したい意欲のある者
- 食と健康や疾病について科学的に研究したい者

学部等名 健康プロデュース学部 こども健康学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表
<https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/>）

（概要）
 健康プロデュース学部は、人が現代社会を健康に過ごすために、健康についての確かなサポートができる人材を育成し、健康を有機的総合的に捉えて 21 世紀に必要とされる新たな健康概念を模索、創造する研究の推進を目的とする。
 こども健康学科は、「こどもにとっての真の意味での『健康』とは何か」を現代科学の最先端に立って多角的に考究すること及びそこから得られた専門的知見に基づき、「こどもの健康」を保育・幼児教育の立場から総合的に実現できる人材を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表
<https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/>）

（概要）

知識・理解

- ・ 保育専門職としての確かな専門性を身につけている。
- ・ 21 世紀の保育や健康課題に対処するために必要な知識を身につけている。

思考・判断

- ・ 保育専門職として相応しい職業倫理観を持っている。
- ・ 地域社会のために幅広い視野で問題解決できる。

関心・意欲

- ・ いろいろなことに「気づく目」「感じる心」を持っている。
- ・ 現代社会の様々な問題に関心を持ち、専門職として考え、意欲的に行動できる。

| |
|--|
| <p>態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育専門職として、子どもの健康に関する様々な問題を総合的に把握することができる。 ・豊かな人間性を備えた未来志向の実践者として努力することができる。 <p>技能・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・獲得した知識とスキルを活用して、家庭や地域と連携し、子どもを健全に育むことができる。 |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/）</p> <p>（概要）</p> <p>「健康」をテーマに人と社会に関わることになる学部学生の人間性を高める学部共通の選択科目として、教養文化領域、スポーツ領域、コミュニケーション領域について以下の25科目を配置する。</p> <p>教養文化領域は複雑多岐にわたる価値観を持つ人と社会へ対応するために10科目、スポーツ領域は全学共通科目としての体育系科目とは別に健康維持・増進及びスポーツについての理解を深めるための5科目を配置する。コミュニケーション領域は、世界共通言語としての英語コミュニケーション4科目は全学共通科目となっているため、学部共通科目では英語以外の語学教養を身に付けられるように幅広い選択肢を設け、総合的な語学力を習得するとともに異文化・国際理解、コミュニケーションの意味やその重要性の理解を深めるための8科目と、健康的な生活を支援する専門的教養として「手話」「点字」の2科目、計10科目を配置する。</p> <p>こども健康学科では、科目群を「基礎理論系科目」と「基礎演習系科目」及び、学生一人ひとりの興味関心や進路希望による広範な選択肢をもつ「応用理論系科目」「教育内容・方法論系科目」「応用演習系科目」「専門演習系科目」「総合表現活動演習系科目」「実習系科目」「社会体験実習」という合計9つの科目群に分け、各科目間における相互の関連や連携に留意しつつ、教育課程を構成し体系化する。基礎理論系科目及び基礎演習系科目の授業は、専門教育の基礎を構築させることを目的としたものであり、主に、1・2年次に展開し、多くの必修科目を配置する。</p> |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/）</p> <p>（概要）</p> <p>健康プロデュース学部では、基礎的な学力を十分に活用し、自ら考え判断することができる者、そして、健康に関する多様な学問分野について興味を持ち、将来の目標達成に向けて前向きに取り組むことができる学生を求めます。</p> <p>こども健康学科では、具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● こどもの健康な生活や遊びに関心・意欲を持ち、保育専門職に就くための情熱と根気を兼ね備えた者 ● 保育スキル修得やコミュニケーション能力向上に努め、知識・技能を活かして社会貢献できる者 |

| |
|---|
| <p>学部等名 健康プロデュース学部 心身マネジメント学科</p> |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/）</p> |
| <p>（概要）</p> <p>健康プロデュース学部は、人が現代社会を健康に過ごすために、健康についての確かなサポートができる人材を育成し、健康を有機的総合的に捉えて21世紀に必要なとされる新たな健康概念を模索、創造する研究の推進を目的とする。</p> <p>心身マネジメント学科は、「人間が生きていく」ことに直結する「身体」「心理」の領</p> |

域を統合させながら学際的な視点で学び、それらを取り巻く「社会」の領域でこれらを補完することによって、健康増進にとどまらず、21世紀社会に求められる積極的な生き方やそこから生み出される健康づくりに貢献できる人材を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表

<https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/>)

(概要)

知識・理解

- ・時代の要請や人々の価値観によって変化する健康や体育・スポーツの概念についての基礎的知識を理解している。
- ・理論面、実践面の両面から健康や体育・スポーツを捉えることのできる広い視野を身につけている。
- ・得意とする分野において求められる高度で専門性の高い知識や技能を修得している。

思考・判断

- ・新しい健康観とはどのようなものか、あるいは競技者のサポートやスポーツ振興の要点とはどのようなものかを、多様な視点から大局的に考えることができる。
- ・個々の課題や問題について考察し、それらを解決するための適切なアプローチを判断し選択することができる。

関心・意欲

- ・心身の健康づくりや競技力の発揮・向上、体育・スポーツと社会や文化との関係性に興味関心を持ち、主体的かつ計画的に課題や問題の解決に取り組むことができる。
- ・得意とする分野以外にも幅広くアンテナを張り、専門的な実践力をさらに高めるために活かすことができる。

態度

- ・成果を生み出す人間関係を構築するコミュニケーション能力を有するとともに、求められる場に応じてリーダーシップを発揮し、社会の一員として適切に振る舞うことができる。
- ・関係者同士の立場や考え方を尊重し、連携を図りながら、個人や集団、あるいは地域社会等における健康増進・健康創造、競技力の発揮・向上やスポーツ振興等に貢献することができる。

技能・表現

- ・健康やスポーツに関するさまざまな課題について、修得した専門的知識や技能を総合的に活用・応用し、わかりやすく説明し実践することができる。
- ・子どもから高齢者まであらゆる年齢層に応じて、あるいは疾病・障害の有無を問わず、さまざまな健康レベルや競技レベルに合わせて、効果的な指導や支援を行うことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表

<https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/>)

(概要)

「健康」をテーマに人と社会に関わることになる学部学生の人間性を高める学部共通の選択科目として、教養文化領域、スポーツ領域、コミュニケーション領域について以下の25科目を配置する。

教養文化領域は複雑多岐にわたる価値観を持つ人と社会へ対応するために10科目、スポーツ領域は全学共通科目としての体育系科目とは別に健康維持・増進及びスポーツについての理解を深めるための5科目を配置する。コミュニケーション領域は、世界共通言語としての英語コミュニケーション4科目は全学共通科目となっているため、学部共通科目では英語以外の語学教養を身に付けられるように幅広い選択肢を設け、総合的な語学力を習得するとともに異文化・国際理解、コミュニケーションの意味やその重要性の理解を深めるための8科目と、健康的な生活を支援する専門的教養として「手話」「点字」の2科目、計10科目を配置する。

心身マネジメント学科では、健康づくり、スポーツ、医療・福祉、教育など、さまざまな分野で活躍し、地域社会等における健康づくりやスポーツの発展に貢献できる人材を養成するために、「身体」と「心理」の領域を中核としながら人間を取り巻く「社会」の領域まで含めた科目を体系的に学ぶことができるように配置する。

「基幹科目」では、運動生理、解剖、スポーツ、心理、社会、文化などの視点から基本的な学びの根幹を形成する7つの必修科目を配置する。さらに、「身体」領域10科目、「心理」領域8科目、「社会」領域6科目を配置する。このうち「身体」「心理」領域は8単位以上、「社会」領域は6単位以上を選択必修として、3領域の学びを総合的に修得し、上級学年における専門性の高い学習に向けての土台を形成する。

「発展科目」では、「身体」領域34科目、「心理」領域10科目、「社会」領域12科目を配置し、学生は自分自身の将来像を意識しながら目指す進路に応じた専門的な学びを深めてゆく。各領域において、専門性の高い知識や理論を理解するとともに、高度な実践力も身につけることができるように演習や実技科目を体系的に配置する。

そうして修得した知識や技能を統合し、課題や問題を自ら発見し、解決に向けて取り組む態度を育成するために、「専門科目」として専門演習および卒業研究を必修科目として配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表

<https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/>)

(概要)

健康プロデュース学部では、基礎的な学力を十分に活用し、自ら考え判断することができる者、そして、健康に関する多様な学問分野について興味を持ち、将来の目標達成に向けて前向きに取り組むことができる学生を求めます。

心身マネジメント学科では、具体的に次のような学生を求めます。

- 「身体」「心理」とそれを補完する「社会」の3分野を健康学の視点から幅広く学ぶ意欲のある者
- 将来、スポーツ、医療、福祉、教育といった健康に関わる現場及び社会の様々な環境で活躍する意欲のある者
- 常に自律的に行動し、自己の活躍の場を見いだす能力を身につけたい者

学部等名 健康プロデュース学部 健康鍼灸学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表

<https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/>)

(概要)

健康プロデュース学部は、人が現代社会を健康に過ごすために、健康についての確かなサポートができる人材を育成し、健康を有機的総合的に捉えて21世紀に必要なとされる新たな健康概念を模索、創造する研究の推進を目的とする。

健康鍼灸学科は、広い教養を身につけると同時に、西洋近代医学・東洋伝統医学の知識を土台にし、高度な東洋臨床技術を身につけた鍼灸師を養成する。また、鍼灸を医療にとどまらず健康運動、介護福祉、美容、経営などの様々な分野へ展開し得る人材を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表

<https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/>)

(概要)

知識・理解

- ・ 医療や健康の対象者である「個」を理解している。
- ・ 文化や社会情勢に対する幅広い知識を身につけている。
- ・ 専門職として必要な現代医学と東洋医学の知識を身につけている。

思考・判断

- ・鍼灸を基軸として、健康、運動、疾病について科学的に研究し、現代医学と東洋医学の知識を融合させた思考ができる。
- ・現代医学的な鍼灸技術と東洋医学的な鍼灸技術の共通点、相違点を理解し、客観的な視点に立って治療効果を判断できる。

関心・意欲

- ・医療にとどまらず、介護福祉、スポーツ健康産業、美容、カウンセリング、研究など様々な分野へ鍼灸学を展開することに興味、関心を持つことができる。
- ・東洋医学的視点と鍼灸技術とを手段として活用し、個の健康に対するニーズに応えることができる。

態度

- ・医療人としてのモラル、マナー、礼儀を身につけ、実践できる。
- ・高い倫理観を備え、他者から信頼を得ることができる。
- ・情報収集能力、コミュニケーション能力を持ち、論理的かつ創造的な思考ができる。

技能・表現

- ・定期的なレポート作成、卒業研究などを通して、学びの結果や主張を表現できる。東西医学を融合した集学的治療を実践活用できる。
- ・保健医療活動について広い視野に基づく判断力を持ち、地域社会に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表
<https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/>）

（概要）

「健康」をテーマに人と社会に関わることになる学部学生の人間性を高める学部共通の選択科目として、教養文化領域、スポーツ領域、コミュニケーション領域について以下の25科目を配置する。

教養文化領域は複雑多岐にわたる価値観を持つ人と社会へ対応するために10科目、スポーツ領域は全学共通科目としての体育系科目とは別に健康維持・増進及びスポーツについての理解を深めるための5科目を配置する。コミュニケーション領域は、世界共通言語としての英語コミュニケーション4科目は全学共通科目となっているため、学部共通科目では英語以外の語学教養を身に付けられるように幅広い選択肢を設け、総合的な語学力を習得するとともに異文化・国際理解、コミュニケーションの意味やその重要性の理解を深めるための8科目と、健康的な生活を支援する専門的教養として「手話」「点字」の2科目、計10科目を配置する。

健康鍼灸学科では、鍼灸師に必要な現代医学の基礎・専門知識を習得するため、解剖学、生理学、臨床医学等の分野を含む基礎医学科目を配置する。

健康を視点に定めた鍼灸学の専門知識・診断法・治療技術・治療効果の評価が体系的に学習できるよう、基礎実習、臨床実習を含む鍼灸学科目を配置する。

専門知識と実技での学びを総合的・総括的・立体的に再構築し、鍼灸学を様々な分野へ展開するため、専門演習科目を配置する。

社会の健康に対するニーズに実践的に応える健康運動・体作りに関する知識と技術を習得するため、健康運動学科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表
<https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/>）

（概要）

健康プロデュース学部では、基礎的な学力を十分に活用し、自ら考え判断することができる者、そして、健康に関する多様な学問分野について興味を持ち、将来の目標達成に向けて前向きに取り組むことができる学生を求めます。

健康鍼灸学科では、具体的に次のような学生を求めます。

- 鍼灸師の仕事・国家資格に関心があり、その知識・技術の習得と資格取得に意欲のある者

- 地域社会に関心を持ち、自らの知識・技術を基にした地域貢献への努力を惜しまない者
- 鍼灸を基軸として健康・運動・疾病などについて科学的に研究したい者

| |
|--|
| <p>学部等名 健康プロデュース学部 健康柔道整復学科</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/ ）</p> <p>（概要） 健康プロデュース学部は、人が現代社会を健康に過ごすために、健康についての確かなサポートができる人材を育成し、健康を有機的総合的に捉えて 21 世紀に必要とされる新たな健康概念を模索、創造する研究の推進を目的とする。 健康柔道整復学科は、西洋医学の知識を土台にし、柔道整復の臨床技術を身につけ、モラルと品格を備えた人間性豊かな柔道整復師を養成する。また、柔道整復学を通じたスポーツクラブ・介護施設での運動指導や、今後の超高齢社会に向けた高齢者の健康増進と健康寿命の伸長に貢献できる人材を育成する。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/ ）</p> <p>（概要）</p> <p>知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋医学を土台とした近代「柔道整復学」の成り立ちと学問内容を十分に理解できる。柔道整復師国家試験に必要とされる十分な知識を身につけ、結果として、国家試験に合格できる実力を備えている。 ・実際の臨床の場において、疾患を正確に理解することができ、被治療者に適切にわかりやすく説明できる能力を身につけている。 <p>思考・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床の場において、対象となる被治療者にもっとも適した治療方針を立て、それに沿った治療方法を自ら選択し、適切に治療を実施できる。 ・対象となる疾病の予後や合併症を十分理解したうえで、QOL（生活の質）を向上させるために必要と思われる適切な生活指導ができる。 <p>関心・意欲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復学領域のみではなく、その修得に必要とされる幅広い周辺の医学分野全般に強い関心をもつことができる。 ・その必要性を理解した上で、必須とされる知識の探求を意欲的に行い、積極的にチーム医療に参加することができる。 <p>態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者としてふさわしい態度で、すべての世代にわたる被治療者に接することができる。 ・他の医療従事者と適切なコミュニケーション関係を構築することができる。 ・地域に根ざした身近な医療従事者として地域医療に貢献できる。 <p>技能・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整形外科的徒手検査法や、機器の操作に習熟し、包帯法を適切に行うことができる。 ・それぞれの部位による骨折・脱臼・捻挫に対して適切な診断と、望ましい整復法・固定法の治療ができる。 |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/ ）</p> |

| |
|--|
| <p>(概要)</p> <p>「健康」をテーマに人と社会に関わることになる学部学生の人間性を高める学部共通の選択科目として、教養文化領域、スポーツ領域、コミュニケーション領域について以下の25科目を配置する。</p> <p>教養文化領域は複雑多岐にわたる価値観を持つ人と社会へ対応するために10科目、スポーツ領域は全学共通科目としての体育系科目とは別に健康維持・増進及びスポーツについての理解を深めるための5科目を配置する。コミュニケーション領域は、世界共通言語としての英語コミュニケーション4科目は全学共通科目となっているため、学部共通科目では英語以外の語学教養を身に付けられるように幅広い選択肢を設け、総合的な語学力を習得するとともに異文化・国際理解、コミュニケーションの意味やその重要性の理解を深めるための8科目と、健康的な生活を支援する専門的教養として「手話」「点字」の2科目、計10科目を配置する。</p> <p>健康柔道整復学科では、日本の伝統医療から生まれた柔道整復学を、西洋医学をベースとした科学的思考に基づく学問分野として原理的に理解できるよう、必要な基礎科目を配置する。</p> <p>基礎科目の選定に関しては、被治療者に対する治療方針の説明責任を完全に果たすために必要となる各種基礎科目を特に選び出して配置する。</p> <p>最上の医療を提供するために、他の医療従事者（医師、歯科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師など）との綿密な連携に必須となる科学的基礎知識、医学的基礎・応用知識を習得するための科目をバランスよく配置する。</p> |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>健康プロデュース学部では、基礎的な学力を十分に活用し、自ら考え判断することができる者、そして、健康に関する多様な学問分野について興味を持ち、将来の目標達成に向けて前向きに取り組むことができる学生を求めます。</p> <p>健康柔道整復学科では、具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 柔道整復師という国家資格に関心が深く、資格取得および質の高い教育を受けることに意欲のある者 ● 運動器の障害や損傷に対する伝統的医術の進化、発展や社会貢献に努力することを惜しまない者 ● 国民の健康のあり方を学び、柔道整復を基軸として健康・運動・疾病について科学的に研究したい者 |

| |
|---|
| <p>学部等名 保健医療学部 理学療法学科</p> |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>保健医療学部は、高齢化にともなう慢性疾患の増加、医学の進歩がもたらす救命率の上昇などによる疾病構造の変化にともない、保健・医療・福祉のさらなる充実が求められている状況の中で、リハビリテーション医療の役割がますます増大している。倫理観と使命感に溢れ、幅広い教養と高度な専門知識及び技術を合わせもった理学療法士・作業療法士を育成し社会に送り出すことで、国民の健康及び生活の質の維持・増進に資することを目的とする。</p> <p>理学療法学科は、医療専門職として高い倫理観、使命観を備え、現代の理学療法分野において特に要請されている「運動障害」「神経障害」「内部障害」の領域について豊富な知識と高度な専門技術をもつ人材を育成する。</p> |

| |
|--|
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-care/admission-policy/ ）</p> <p>（概要）</p> <p>知識・理解 人体の構造と機能を理解し、臨床医学に関する基礎的な知識を身につけている。また、保健医療福祉の仕組みを理解したうえで、リハビリテーションにおける理学療法士の役割及び理学療法を遂行するために必要な評価と治療の手段を理解し応用できる。</p> <p>思考・判断 具体的な疾病や障害に対する適切な理学療法評価法を選択できる。また、それらの評価結果を総合的に解釈したうえで、対象者の問題点を抽出できる。さらに、それらの問題点を解決するための理学療法プログラムを提案できる。</p> <p>関心・意欲 医療の担い手としての高い倫理観と、様々な人生観、価値観を尊重できる豊かな人間性を身につけている。そして、理学療法を通して、地域、社会に貢献すべく、人々の健康を支援するための責任ある行動を取ることができる。</p> <p>態度 医学の進歩や社会情勢の変化を見据えたうえで、体系的・客観的思考をもって自ら専門性を高め、理学療法の発展に寄与することができる。</p> <p>技能・表現 学生を対象に、代表的な理学療法評価法を正確に実施できるとともに、基本的な理学療法治療法を模倣できる。演習を通して身につけた技術を、臨床実習の場で具体的な疾患や障害を持つ人に応用できる。</p> |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-care/admission-policy/ ）</p> <p>（概要）</p> <p>理学療法学科では、専門科目は、医学全般の基礎となる専門基礎科目と、運動器系障害、神経系障害、内部障害の3分野に特化した理学療法の専門教育科目を配置する。専門教育科目を理解できるように専門基礎科目を学年進行につれ順に、体系的段階を経ながら配置する。</p> <p>また、専門教育科目の中において、理学療法の基礎概念や理学療法の評価学、理学療法の治療学、地域理学療法学、理学療法研究法などを、学年進行につれ順に体系的段階を経ながら配置する。また、病院・施設・地域の中で活躍できるようにするために、臨床見学実習、臨床体験実習、臨床実習Ⅰ～Ⅳを学年に適切に配置する。</p> |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-care/admission-policy/ ）</p> <p>（概要）</p> <p>保健医療学部は、医療技術への強い探求心と人間への広い関心を持っており、医療を通して地域と社会に貢献したいと思う学生を求めます。</p> <p>理学療法学科では、具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 理学療法を学ぶ意欲があり、理学療法士をめざす意思のある者 ● 人間の生活とその障害に対する関心を幅広く持っている者 ● 理学療法の専門家として、身体に障害を持つ人の機能を回復させること、そして生活を支援し拡大・充実させることを志す者 |
| <p>学部等名 保健医療学部 作業療法学科</p> |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/ ）</p> |

| |
|---|
| <p>(概要)</p> <p>保健医療学部は、高齢化にともなう慢性疾患の増加、医学の進歩がもたらす救命率の上昇などによる疾病構造の変化にともない、保健・医療・福祉のさらなる充実が求められている状況の中で、リハビリテーション医療の役割がますます増大している。倫理観と使命感に溢れ、幅広い教養と高度な専門知識及び技術を合わせもった理学療法士・作業療法士を育成し社会に送り出すことで、国民の健康及び生活の質の維持・増進に資することを目的とする。</p> <p>作業療法学科は、医療専門職として高い倫理観、使命感を備え、現代の作業療法分野において特に要請されている「身体障害」「精神障害」「発達障害」「高齢期障害」の領域について豊富な知識と高度な専門技術をもつ人材を育成する。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-care/admission-policy/）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>知識・理解 人体の構造と機能を理解し、臨床医学に関する基礎的な知識を身につけている。また、保健医療福祉の仕組みを理解したうえで、リハビリテーションにおける作業療法士の役割及び作業療法を遂行するために必要な評価と治療の手段を理解して応用できる。</p> <p>思考・判断 具体的な疾病や障害に対する適切な作業療法評価法を選択できる。また、それらの評価結果を総合的に解釈したうえで、対象者の問題点を抽出できる。さらに、それらの問題点を解決するための作業療法プログラムを提案できる。</p> <p>関心・意欲 医療の担い手としての高い倫理観と、様々な人生観、価値観を尊重できる豊かな人間性を身につけている。そして、作業療法を通して、地域、社会に貢献すべく、人々の健康を支援するための責任ある行動を取ることができる。</p> <p>態度 医学の進歩や社会情勢の変化を見据えたうえで、体系的・客観的思考をもって自ら専門性を高め、作業療法の発展に寄与することができる。</p> <p>技能・表現 学生を対象に、代表的な作業療法評価法を正確に実施できるとともに、基本的な作業療法治療法を模倣できる。演習を通して身につけた技術を、臨床実習の場で具体的な疾患や障害を持つ人に応用できる。</p> |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-care/admission-policy/）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>作業療法学科では、専門科目は、医学全般の基礎となる専門基礎科目と、身体障害、精神障害、発達障害、高齢期障害の4分野に特化した作業療法の専門教育科目を配置する。専門教育科目を理解できるように専門基礎科目を学年進行につれ順に、体系的段階を経ながら配置する。</p> <p>また、専門教育科目の中において、作業療法の基礎概念や作業療法の評価学、作業療法の治療学、地域作業療法学、作業療法研究法などを、学年進行につれ順に体系的段階を経ながら配置する。また、病院・施設・地域の中で活躍できるようにするために、臨床見学実習、臨床評価技術実習、臨床評価実習、臨床実習を学年に適切に配置する。</p> |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-care/admission-policy/）</p> |

| |
|--|
| <p>(概要)</p> <p>保健医療学部は、医療技術への強い探求心と人間への広い関心を持っており、医療を通して地域と社会に貢献したいと思う学生を求めます。</p> <p>作業療法学科では、具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 作業療法学を学ぶ意欲があり、作業療法士をめざす意思のある者 ● 人間の生活とその障害に対する関心を幅広く持っている者 ● 作業療法の専門家として、心身に障害を持つ人の機能を回復させること、そして生活を支援し拡大・充実させることを志す者 |
|--|

| |
|--|
| <p>学部等名 社会環境学部 社会環境学科</p> |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>社会環境学部は、環境問題の解決や社会の安全のための社会システムの構築を目指し、関連する自然科学分野の知識と理解と、それらを前提とした社会科学分野の視点に基づく問題解決型の教育研究に重点をおき、複数専門分野の教員による学際的内容とするために授業を展開し、地球環境や防災のために貢献できる人材の育成を目的とする。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/social/admission-policy/）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>知識・理解 環境・防災分野の専門知識を有し、環境や防災の課題について、自然環境と人間社会の相互関係から把握し理解することができる。</p> <p>思考・判断 環境・防災分野に関する専門知識を基に、地域社会の中で暮らしを営む“ヒト“の視点から問題を発見し、最適解を探求することができる。</p> <p>関心・意欲 環境や防災の問題にとどまらず、持続可能な社会の実現に貢献することを目指し、社会の抱える課題の解決のための幅広い学問的好奇心を持つことができる。</p> <p>態度 環境課題や防災課題を克服した持続可能な社会システムの構築を目指すことができる。</p> <p>技能・表現 環境問題の解決や安全な社会システムの構築のために、実践的な知識、素養、技術を身に付け、広く社会に貢献できる。</p> |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/social/admission-policy/）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>専門教育科目は、環境問題の解決や社会の安全確保のための社会システムの構築を目指し、広く社会に貢献できる人材を育成するため、関連する自然科学分野を柱としながら、地域社会の中で暮らしを営む“ヒト“の視点を扱う社会科学分野を配置する。それは、「環境」および「防災」両分野の基礎理論・知識、歴史的理解、基礎的技術等を修得するために必要な「専門基礎科目」と、社会環境学部を構成する3コースの学びの目的に沿った専門知識・技術を修得するための「コース専門科目」、および社会環境学部における教養教育科目、専門教育科目の学修結果を踏まえ、これらの知識を統合し、良識ある社会人となるための「総合科目」から構成されている。</p> |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表</p> |

| |
|--|
| https://www.tokoha-u.ac.jp/social/admission-policy/) |
| <p>(概要)</p> <p>社会環境学部は、環境問題の解決や社会の安全確保のための社会システムの構築に貢献できる人材の育成を目的としています。そのため、環境や防災の問題に興味を持ち、持続可能な社会の実現に貢献することを目指し、社会の抱える課題の解決のための的確な知識と判断力を身につけたいという意欲のある学生を求めます。</p> <p>社会環境学科では、具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 私たちの身近な生活環境から地球環境までの様々な現象に何かしら問題点や疑問を抱く感受性があり、持続可能な社会の実現に貢献することを目指し、現代の社会が抱える課題の解決のための的確な知識と判断力を身に付けたい者 ● 社会心理学、社会学、社会人類学、社会情報学といった社会科学の分野に興味を持ち、それらの知識・技術を習得し、積極的に人や社会に関わり「環境問題の解決」や「安全・安心な社会」の構築に貢献したいと志している者 ● 環境再生学、環境科学、生態学等に興味を持ち、環境教育、環境と野生生物の保全、自然再生などについても学び、自ら実践することで人と自然の共生を目指した社会の構築に貢献したいと志している者 ● 地震学・地質学・火山学・防災工学、もしくは地域防災・企業防災・防災教育等に興味を持ち、安全・安心な社会システムづくりに貢献したいと志している者 |

| |
|---|
| <p>学部等名 保育学部 保育学科</p> |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>保育学部は、社会環境の変化の中で、保育・幼児教育が社会的に有用な存在として、その機能を十分に果していくために、「人間性を育む教育」「障がい児教育・環境教育」「健康教育」「感性教育」の4つの理念の下、高い人間性と保育技術の向上に加え、特別支援教育等新たなニーズに対応できる人材の育成を目的とする。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/childcare/admission-policy/)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>知識・理解 保育の基礎的な知識を土台に、実践を通して、専門性の理解を深めることができる。</p> <p>思考・判断 保育課題について自ら考え、解決方法を提案することができる。</p> <p>関心・意欲 保育課題に関心を持ち続け、解決に向けて取り組む意欲を維持することができる。</p> <p>態度 保育課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。</p> <p>技能・表現 子どもの感性や創造力を引き出す表現力と技能を活用することができる。</p> |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/childcare/admission-policy/)</p> |

| |
|--|
| <p>(概要)</p> <p>今日の保育課題・地域のニーズに適切に対応することができ、共同体感覚に優れた社会性のある保育者の育成を目指す。専門教育として3つの履修モデルを提示する。</p> <p>「保育心理学履修モデル」では、子どもを客観的に捉え分析できる能力と広い視野を身につけた保育者を目指し、保育学・心理学関係科目を配置する。</p> <p>「子育て・療育支援履修モデル」では、発達障害を取り巻く環境や体力低下や食生活を中心とした基本的な生活習慣の課題についての課題を研究し、解決策を提案できる保育者を目指し、特別支援教育・健康教育・食育関係科目を配置する。</p> <p>「感性教育履修モデル」では、音楽や造形表現を柱とし、子どもの成長に寄り添う豊かな感性・表現力と実践力を持つ保育者を目指し、音楽や造形関係科目を配置する。</p> |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/childcare/admission-policy/）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>保育学部は、子どもの心を理解し、創造的で感性豊かな保育者の育成を目指していきます。意欲や将来展望などの学びの姿勢、幼児教育、保育職への志望の強さ、情緒面における安定性、保育者の資質としての他者への包容力など、人格面の育成を目指す保育者としての実践力を培いたいという意欲の高い学生を求めます。</p> <p>保育学科では、具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもが大好きで、子どものより良き理解者になれる者 ● 困難を抱える、幼児期の子どものために尽くしたい者 ● 子ども達に豊かな感性と夢を与えたい者 ● 子ども達と共に、自然の中で、歌い・踊り・語り・製作し、身体ごと全身で活動したい者 ● 保育の専門的知識・技術の習得に対して積極的で意欲のある者 |

②教育研究上の基本組織に関すること

| |
|---|
| <p>公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/02/</p> |
|---|

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

| a. 教員数（本務者） | | | | | | | |
|--|--------|--|-----|-----|----|-----------|------|
| 学部等の組織の名称 | 学長・副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 その他 | 計 |
| — | 4人 | — | | | | | 4人 |
| 教育学部 | — | 24人 | 17人 | 12人 | 0人 | 1人 | 54人 |
| 外国語学部 | — | 12人 | 10人 | 3人 | 0人 | 0人 | 25人 |
| 造形学部 | — | 8人 | 1人 | 2人 | 0人 | 0人 | 11人 |
| 法学部 | — | 6人 | 4人 | 7人 | 2人 | 0人 | 19人 |
| 健康科学部 | — | 11人 | 11人 | 10人 | 5人 | 5人 | 42人 |
| 経営学部 | — | 15人 | 16人 | 7人 | 1人 | 0人 | 39人 |
| 健康プロデュース学部 | — | 25人 | 23人 | 14人 | 8人 | 7人 | 77人 |
| 保健医療学部 | — | 8人 | 8人 | 3人 | 2人 | 0人 | 21人 |
| 社会環境学部 | — | 9人 | 8人 | 2人 | 0人 | 0人 | 19人 |
| 保育学部 | — | 6人 | 6人 | 4人 | 0人 | 0人 | 16人 |
| b. 教員数（兼務者） | | | | | | | |
| 学長・副学長 | | 学長・副学長以外の教員 | | | | | 計 |
| 0人 | | 422人 | | | | | 422人 |
| 各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等） | | 公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/teachers/ | | | | | |
| c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項） | | | | | | | |
| <p>教育内容・方法の向上を目的とする取り組みとして、毎年6月と11月に「授業力向上強化月間」を設定し、法人内の各学校の教員が相互に授業を参観している。これは教員の授業力向上だけでなく、学校種や職位を超えた教員間の交流促進の役割も果たしている。</p> <p>教職員の資質向上への取り組みについては、FD・SD委員会を中心に年に複数回の研修会を開催し、学生支援、授業改善、ハラスメント防止、地域貢献、産学交流等のテーマで研修を行っている。</p> <p>また、毎年、法人内の全教職員を対象とした研修会や管理職教職員を対象とした管理職研修会をそれぞれ実施し、コンプライアンスに関する講演の開催、教職協働、高大連携等をテーマとして協議の場を設けている。</p> <p><平成30年度 FD 研修会の実施例> 学習意欲や授業満足度向上を目指した授業改善について、教学・研究環境の改善について、学生支援体制における教職協働について</p> | | | | | | | |

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

| 学部等名 | 入学定員 (a) | 入学者数 (b) | b/a | 収容定員 (c) | 在学生数 (d) | d/c | 編入学 定員 | 編入学 者数 |
|----------------|-------------|-------------|--------|-------------|-------------|--------|-----------|-----------|
| 教育学部 | 270人 | 318人 | 117.8% | 1,080人 | 1,246人 | 115.4% | 0人 | 0人 |
| 外国語学部 | 170人 | 215人 | 126.5% | 680人 | 851人 | 125.1% | 0人 | 0人 |
| 造形学部 | 100人 | 112人 | 112.0% | 380人 | 371人 | 97.6% | 0人 | 0人 |
| 法学部 | 160人 | 228人 | 142.5% | 640人 | 743人 | 116.1% | 0人 | 0人 |
| 健康科学部 | 140人 | 143人 | 102.1% | 560人 | 587人 | 104.8% | 0人 | 0人 |
| 経営学部 | 300人 | 304人 | 101.3% | 1,210人 | 1,327人 | 109.7% | 5人 | 0人 |
| 健康プロデュ ース学部 | 300人 | 310人 | 103.3% | 1,230人 | 1,162人 | 94.5% | 15人 | 2人 |
| 保健医療学部 | 80人 | 71人 | 88.8% | 320人 | 294人 | 91.9% | 0人 | 0人 |
| 社会環境学部 | 100人 | 123人 | 123.0% | 410人 | 463人 | 112.9% | 5人 | 0人 |
| 保育学部 | 160人 | 177人 | 110.6% | 490人 | 530人 | 108.1% | 5人 | 0人 |
| 合計 | 1,780人 | 2,001人 | 112.4% | 7,000人 | 7,574人 | 108.2% | 30人 | 2人 |
| (備考) | | | | | | | | |

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

| 学部等名 | 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
|----------------|-----------------|---------------|-------------------|----------------|
| 教育学部 | 275人 (100%) | 21人 (7.6%) | 245人 (89.1%) | 9人 (3.3%) |
| 外国語学部 | 141人 (100%) | 0人 (0%) | 119人 (84.4%) | 22人 (15.6%) |
| 造形学部 | 99人 (100%) | 0人 (0%) | 81人 (81.8%) | 18人 (18.2%) |
| 法学部 | 157人 (100%) | 1人 (0.6%) | 148人 (94.3%) | 8人 (5.1%) |
| 健康科学部 | 135人 (100%) | 1人 (0.7%) | 123人 (91.1%) | 11人 (8.1%) |
| 経営学部 | 273人 (100%) | 0人 (0%) | 246人 (90.1%) | 27人 (9.9%) |
| 健康プロデュ ース学部 | 305人 (100%) | 7人 (2.3%) | 285人 (93.4%) | 13人 (4.3%) |
| 保健医療学部 | 80人 (100%) | 0人 (0%) | 76人 (95.0%) | 4人 (5.0%) |
| 社会環境学部 | 92人 (100%) | 1人 (1.1%) | 85人 (92.4%) | 6人 (6.5%) |
| 保育学部 | 96人 (100%) | 0人 (0%) | 91人 (94.8%) | 5人 (5.2%) |
| 合計 | 1653人 (100%) | 31人 (1.9%) | 1499人 (90.7%) | 123人 (7.4%) |

| |
|---|
| (主な進学先・就職先) (任意記載事項) 小学校教諭/中・高校教諭/幼稚園教諭/公務員/病院・診療所/公的機関/金融機関/一般企業/ 大学院進学 など |
| (備考) |

| c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項) | | | | | |
|---|------------------|-------------------|---------------|----------------|------------|
| 学部等名 | 入学者数 | 修業年限期間内 卒業者数 | 留年者数 | 中途退学者数 | その他 |
| 教育学部 | 285人 (100%) | 269人 (94.4%) | 3人 (1.1%) | 13人 (4.6%) | 0人 (0%) |
| 外国語学部 | 156人 (100%) | 129人 (82.7%) | 12人 (7.7%) | 15人 (9.6%) | 0人 (0%) |
| 造形学部 | 113人 (100%) | 98人 (86.7%) | 7人 (6.2%) | 8人 (7.1%) | 0人 (0%) |
| 法学部 | 169人 (100%) | 155人 (91.7%) | 5人 (3.0%) | 9人 (5.3%) | 0人 (0%) |
| 健康科学部 | 146人 (100%) | 124人 (84.9%) | 5人 (3.4%) | 17人 (11.6%) | 0人 (0%) |
| 経営学部 | 318人 (100%) | 244人 (77.6%) | 25人 (7.9%) | 49人 (15.4%) | 0人 (0%) |
| 健康プロデュ ース学部 | 315人 (100%) | 299人 (94.9%) | 4人 (1.3%) | 12人 (3.8%) | 0人 (0%) |
| 保健医療学部 | 84人 (100%) | 66人 (78.6%) | 7人 (8.3%) | 11人 (13.1%) | 0人 (0%) |
| 社会環境学部 | 109人 (100%) | 89人 (81.7%) | 9人 (8.3%) | 11人 (10.1%) | 0人 (0%) |
| 保育学部 | 98人 (100%) | 96人 (98.0%) | 0人 (0%) | 2人 (2.0%) | 0人 (0%) |
| 合計 | 1,793人 (100%) | 1,569人 (87.5%) | 77人 (4.3%) | 147人 (8.2%) | 0人 (0%) |
| (備考) 健康プロデュース学部から外国語学部へ1名転部。 | | | | | |

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

| |
|--|
| <p>(概要)</p> <p>年間の授業の計画については、5月より前年度の振り返りと次年度の計画の作成に着手し、11月頃に概ね決定する。</p> <p>12月下旬より授業科目担当者に対して、授業計画(シラバス)の作成を依頼し、1月下旬までに提出させるとともに、提出の際にシラバスの自己点検の結果を併せて提出させている。</p> <p>その後、各学科から選出されたシラバスチェック担当者によるシラバスチェックを行い、3月中旬までの間、必要に応じてシラバスの修正を依頼する。</p> <p>3月下旬から本学ホームページ上においてシラバスを公表している。</p> |
|--|

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

| |
|---|
| <p>(概要)</p> <p>学習成果に係る評価は、シラバスの中に成績評価の方法・基準に基づき、試験、レポート、受講態度など授業の特性にあった適切な方法により、成績評価規程の基準を踏まえ、厳格かつ適正に評価して単位を与えている。</p> <p>また、卒業の認定にあたっては、卒業認定に関する方針に基づき、学生の修得単位数、在学期間等を踏まえ、卒業を認定している。</p> |
|---|

| 学部名 | 学科名 | 卒業に必要となる単位数 | GPA制度の採用 (任意記載事項) | 履修単位の登録上限 (任意記載事項) |
|-------------------------|------------------|-------------|----------------------|-----------------------|
| 教育学部 | 初等教育課程 | 124単位 | 有・無 | 48単位 |
| | 生涯学習学科 | 124単位 | 有・無 | 48単位 |
| | 心理教育学科 | 124単位 | 有・無 | 48単位 |
| 外国語学部 | 英米語学科 | 124単位 | 有・無 | 48単位 |
| | グローバルコミュニケーション学科 | 124単位 | 有・無 | 48単位 |
| 造形学部 | 造形学科 | 124単位 | 有・無 | 48単位 |
| 法学部 | 法律学科 | 124単位 | 有・無 | 44単位 |
| 健康科学部 | 看護学科 | 124単位 | 有・無 | 44単位 |
| | 静岡理学療法学科 | 124単位 | 有・無 | 44単位 |
| 経営学部 | 経営学科 | 124単位 | 有・無 | 40単位 |
| 健康プロデュース学部 | 健康栄養学科 | 124単位 | 有・無 | 42単位 |
| | こども健康学科 | 124単位 | 有・無 | 44単位 |
| | 心身マネジメント学科 | 124単位 | 有・無 | 42単位 |
| | 健康鍼灸学科 | 124単位 | 有・無 | 42単位 |
| | 健康柔道整復学科 | 124単位 | 有・無 | 42単位 |
| 保健医療学部 | 理学療法学科 | 124単位 | 有・無 | 46単位 |
| | 作業療法学科 | 124単位 | 有・無 | 46単位 |
| 社会環境学部 | 社会環境学科 | 124単位 | 有・無 | 42単位 |
| 保育学部 | 保育学科 | 124単位 | 有・無 | 42単位 |
| GPAの活用状況 (任意記載事項) | | 公表方法: | | |
| 学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項) | | 公表方法: | | |

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページにおいて公表

<https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/07/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

| 学部名 | 学科名 | 授業料 (年間) | 入学金 | その他 | 備考 (任意記載事項) |
|------------|------------------|-------------|----------|----------|-----------------|
| 教育学部 | 初等教育課程 | 800,000円 | 220,000円 | 260,000円 | その他：施設設備整備費 |
| | 生涯学習学科 | 780,000円 | 220,000円 | 260,000円 | その他：施設設備整備費 |
| | 心理教育学科 | 780,000円 | 220,000円 | 260,000円 | その他：施設設備整備費 |
| 外国語学部 | 英米語学科 | 760,000円 | 220,000円 | 250,000円 | その他：施設設備整備費 |
| | グローバルコミュニケーション学科 | 760,000円 | 220,000円 | 250,000円 | その他：施設設備整備費 |
| 造形学部 | 造形学科 | 860,000円 | 220,000円 | 310,000円 | その他：施設設備整備費 |
| 法学部 | 法律学科 | 720,000円 | 220,000円 | 250,000円 | その他：施設設備整備費 |
| 健康科学部 | 看護学科 | 940,000円 | 220,000円 | 690,000円 | その他：施設設備整備費、実習費 |
| | 静岡理学療法学科 | 900,000円 | 220,000円 | 590,000円 | その他：施設設備整備費、実習費 |
| 経営学部 | 経営学科 | 720,000円 | 220,000円 | 250,000円 | その他：施設設備整備費 |
| 健康プロデュース学部 | 健康栄養学科 | 760,000円 | 220,000円 | 440,000円 | その他：施設設備整備費、実習費 |
| | こども健康学科 | 790,000円 | 220,000円 | 310,000円 | その他：施設設備整備費 |
| | 心身マネジメント学科 | 820,000円 | 220,000円 | 340,000円 | その他：施設設備整備費 |
| | 健康鍼灸学科 | 990,000円 | 220,000円 | 600,000円 | その他：施設設備整備費、実習費 |
| | 健康柔道整復学科 | 990,000円 | 220,000円 | 600,000円 | その他：施設設備整備費、実習費 |
| 保健医療学部 | 理学療法学科 | 900,000円 | 220,000円 | 590,000円 | その他：施設設備整備費、実習費 |
| | 作業療法学科 | 900,000円 | 220,000円 | 590,000円 | その他：施設設備整備費、実習費 |
| 社会環境学部 | 社会環境学科 | 880,000円 | 220,000円 | 300,000円 | その他：施設設備整備費 |
| 保育学部 | 保育学科 | 790,000円 | 220,000円 | 310,000円 | その他：施設設備整備費 |

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

| |
|--|
| <p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>学生支援センター</p> <p>学生に対する様々な支援の総合窓口として、学生支援センターを設置している。同センターでは、学修、進路、対人関係など、学生一人ひとりの課題や問題と向き合いながら、学生の皆さんが実りある学生生活を送ることができるよう、学内の部署や学外の関係機関と連絡や調整を行い、サポートを行っている。</p> <p>その他、学生の多様な学びに対応するための様々な修学支援を行っている。</p> <p>指導教員制度</p> <p>全ての学生に対して、学部・研究科の教員1名を指導教員として配置する指導教員制度を導入している。学生は学業上の問題や一身上の問題など、修学中の様々な問題について指導教員に相談し、適切な指導・助言を得ることができる。</p> <p>オフィスアワー制度</p> <p>学生と教員との緊密なコミュニケーションを図るため、あらかじめ登録してある時間に研究室に在室し、訪問学生との交流を図るオフィスアワー制度を導入している。学生は、授業時間中では十分に尋ねることができなかつたことを質問し、所属学部・学科以外の教員から幅広い知</p> |
|--|

識・情報に触れることができる。

基礎教育センター

基礎教育センターは、多様な学習歴・学力・資質を持って入学してくる学生に対して、一定水準の基礎教養並びに専門分野を学ぶための基礎学力の定着を図るため、入学前教育から入学後の学習支援まで継続的に指導を行っている。個別の学習相談等も実施している。

外国語学習支援センター

外国語学習支援センターは、国際交流や外国語学習に関する情報を提供するとともに、本学で学ぶことができるすべての外国語を対象に、その学習を支援する様々な企画・運営を行っている。外国語の学習方法についての相談、語学検定試験の情報提供、海外留学のサポートなど、専任教員や学生 TA（ティーチング・アシスタント）、専門スタッフが一人ひとりの状況にあわせてサポートしている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

変化する社会に対応するために、進路・就職支援、資格取得支援等、様々な支援体制を整備している。

キャリアサポートセンター

キャリアサポートセンターは、学生の就職に関する希望の実現を目指して、就職活動をサポートする組織である。センターでは専門スタッフが常駐し、就職に関するさまざまな質問や相談を受け付け、面接指導やエントリーシートの添削、インターンシップ参加の指導、就職活動時における企業選定等、多岐にわたるキャリア支援を行っている。また、250社を超える企業を招き、本学主催の合同企業説明会を複数会場で開催している。

教職支援センター

教職支援センターは、「教員への憧れ」をもって入学した学生が、資質を十分に伸ばし、教員になるため、教員免許取得および教員採用試験合格に向けた支援を行っている。教員免許状に必要な単位を取得するために、教育実習・介護などの体験のサポートをしています。また、小・中学校への学習支援ボランティアの窓口として学生が自主的に学ぶ場を提供している。教職特別指導の「教育相談室」では、教員経験のある教育相談職員が、教員採用試験に向けて、相談にのったり、面接指導をしたり、きめ細かな支援をしています。学生同士が仲間とともに語り合い、学び合う場にもなっている。

幼児教育支援センター

幼児教育支援センターは、保育者を目指す学生が、資質を十分に伸ばし、将来、保育士・幼稚園教諭として活躍するために、教員及び保育士養成プログラムの企画・運営・支援を行っている。教員免許状・保育士資格取得の情報、教員・保育士等の採用試験の情報や試験対策の情報を収集・提供し、対象学部学科と連携しながら、総合的な支援を行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

全ての学生が心身の健康を保持し、安全で快適な環境下においてあらゆる活動に専念できるよう、生活・健康相談、カウンセリング等のサポート体制を整備している。

カウンセリングルーム（学生相談室）

カウンセラー（臨床心理士）が常駐し、学生の様々な悩みに対するカウンセリングを受けることができる。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページにおいて公表

<https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/>